

## アンスティチュ・フランセ関西-京都

2015年5月28日(木) 16:00

全てを選ぶことを諦めないために

女性とリーダーシップ——大学の果たす役割、日仏展望

CHOISISSEZ TOUT ! : FEMMES ET LEADERSHIP

REGARDS CROISÉS FRANCO-JAPONAIS SUR LE RÔLE DES UNIVERSITÉS

**ナタリー・ロワゾ** Nathalie Loiseau フランス国立行政学院 [ENA] 校長  
1964年生まれ。パリ政治学院卒。仏外務省の高級官僚を経て、2012年にENA校長に就任。  
4児の母。ENA出身者でない校長の例としては、2人目。

**伊藤公雄** Kimio Ito 内閣府男女共同参画会議基本問題調査専門委員会委員  
1951年埼玉県生まれ。京都大学大学院博士課程修了後、イタリア政府給費留学生としてミラノ大学政治学部留学。大阪大学大学院教授などを経て2005年より京都大学大学院教授。  
専門は文化社会学、ジェンダー論。内閣府男女共同参画会議専門調査委員(2001-2011)、  
現在、滋賀県、大阪府、京都府男女共同参画審議会議長、日本学術会議会員。

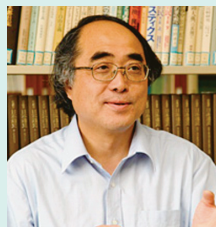
[司会]

**石野伸子** Nobuko Ishino 産経新聞  
1974年産経新聞大阪本社入社。社会部をへて文化部所属。育児、女性問題など担当。文化部  
部長、編集局次長をへて2005年から東西の編集局編集委員。子供2人。「女50歳からの東京  
ぐらし」(産経新聞出版)は東京編集局時代の単身赴任生活をまとめた。産経新聞で「浪花ぐ  
らし」「浪花女を読み直す」など連載中。ラジオ大阪のニュース番組でアンカーマンをつとめる。

[協賛 アートコーポレーション株式会社]



ナタリー・ロワゾ



伊藤公雄



石野伸子

日仏会館 | 2015年5月26日(火) 18:30

それでも二人で暮らすのか?

日本とフランスにおけるカップルの期待、幻滅、新しいモデル

[登壇者] フランソワ・ド・サングリー (パリ・デカルト大学)、山田昌弘 (中央大学)

日仏会館 | 2015年6月5日(金) 18:30

家族とカップルの変化——愛とセクシャリティの位置

[登壇者] ミッシェル・ボゾン (国立人口学研究所/社会学者)、加藤秀一 (明治大学/社会学者)

[お問い合わせ・アクセス]

京都大学 芝蘭会館(稲盛ホール) | 606-8501 京都市左京区吉田近衛町京都大学医学部構内 | ☎075-753-9336

上智大学 2号館17階 | 102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 | ☎03-3238-4052 (当日問い合わせ☎03-3238-3191)

日仏会館 | 150-0013 東京都渋谷区恵比寿 3-9-25 日仏会館フランス事務所 | ☎03-5421-7641

アンスティチュ・フランセ関西-京都 (旧 関西日仏学館) | 606-8301 京都市左京区吉田泉殿町8 | ☎075-761-2105

INSTITUT  
FRANÇAIS

アンスティチュ・フランセ日本  
JAPON



京都大学  
KYOTO UNIVERSITY

上智大学  
SOPHIA UNIVERSITY

読売新聞



日仏討論会  
DÉBATS D'IDÉES  
FRANCO-JAPONAIS



男女間の不平等との闘い  
袋小路を抜け出すためのイニシアティブとは?

LUTTE CONTRE LES INÉGALITÉS HOMMES-FEMMES :  
QUELLES INITIATIVES POUR SORTIR DE L'IMPASSE ?

2015 / 5 / 9 (土) 15:30-18:00 @ 京都大学  
2015 / 5 / 28 (木) 16:00-17:30 @ アンスティチュ・フランセ関西-京都  
2015 / 5 / 29 (金) 17:30-19:30 @ 上智大学  
ほか

samedi 9 mai 2015 | 15h30-18h00 | UNIVERSITÉ de KYOTO  
jeudi 28 mai 2015 | 16h00-17h30 | Institut français du Japon - Kansai / Kyoto  
vendredi 29 mai 2015 | 17h30-19h30 | UNIVERSITÉ SOPHIA

共催 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本、京都大学、上智学院男女共同参画推進室  
後援 読売新聞社

協賛 アクサ生命保険株式会社、アートコーポレーション株式会社



INSTITUT  
FRANÇAIS  
アンスティチュ・フランセ日本  
JAPON



## 【概要】

世界経済フォーラムによる最近（2013年）の世界136ヶ国における男女間不平等格付けにおいて、日本は105位となっています。日本人女性の収入と就労機会は、日本人男性に比べ65%にとどまっています。

教育や健康の分野における男女間の格差は大部分解消されたとはいえ、政界（政策決定機関における女性の割合は6%）と労働市場における不平等は顕著です。そして仕事の質と就労機会の二重の格差が存在しているのです。

日本の人口の高齢化が加速し、日本の就労人口が大きく減少することが予測される中、労働市場への女性の参画の促進は、安倍首相の政策の三本の矢の一つとなっています。

## 京都大学 芝蘭会館（稲盛ホール）

2015年5月9日（土）15:30

### 労働市場における男女間の不平等 袋小路から抜け出るには？

LES INÉGALITÉS HOMMES-FEMMES SUR LE MARCHÉ DU TRAVAIL : COMMENT SORTIR DE L'IMPASSE ?

〔開会の辞〕稲葉カヨ（京都大学副学長） 〔統括〕横山美夏（京都大学教授）

#### ダニエル・ブスケ Danielle Bousquet フランス男女平等推進委員長

1945年生まれ。女性の地位向上に熱心に取り組む政治家で2013年1月に創設された内閣直属の男女平等高等諮問機関長である。1997年から2012年まで国会議員。2002年から2012年まで男女機会均等と男女同権に関する国会諮問委員会副議長。2010年女性への暴力防止法共同起草者。

#### フランソワーズ・ミレウスキ Françoise Milewski シアンスポ教授

シアンスポ（パリ政治学院）ジェンダー研究教育プログラムの共同責任者。シアンスポ経済研究所研究者。労働市場における男女間の不平等の専門家。「ジェンダー、職業、公共政策」についての学際的研究グループを主宰する。男女間職業平等高等委員会のメンバー。環境社会経済諮問委員会にも参画している。

#### 橋本俊詔 Toshiaki Tachibanaki 京都大学名誉教授、京都女子大学客員教授

1943年生まれ。1973年ジョージタウン大学大学院博士課程修了（Ph.D）。仏、米、英、独の大学、研究所の勤務を経て、京都大学教授。その後同志社大学を経て、現在は京都女子大学客員教授。京都大学名誉教授。元男女共同参画会議議員、元日本経済学会会長を経験。

#### 小酒部さやか Sayaka Osakabe マタハラNet代表

1977年生まれ。2005年多摩美術大学卒業。正社員として勤務した後、契約社員として転職した中小企業にてマタハラの被害に遭い、流産を経験、退職。2014年7月マタハラハラスメント対策ネットワークを設立。本年3月、アメリカ国務省より日本人初となる「世界の勇気ある女性賞」を受賞。マタハラに対する日本の国民的議論を巻き起こしたことが高く評価された。

#### 小笠原隆裕 Takahiro Ogasawara アクサ生命保険株式会社執行役、広報部門長兼チーフコーポレートレスポンスオフィサー危機管理・事業継続部門長兼札幌本社長

1992年慶応義塾大学経済学部を卒業し、第一勧業銀行入行。人事部、本店営業部、みずほ銀行ITシステム統括部などを経て、2005年、アクサ生命に入社。ストラテジック・プログラム・オフィス、マーケティング部門、戦略企画部門、執行役員戦略企画部門長などを歴任し、2013年から現職。米ロチェスター大学サイモンズスクールにてMBAを取得。

〔司会〕

#### 竹村登茂子 Tomoko Takemura 読売新聞大阪本社編集局文化・生活部長

1981年、同志社大学文学部卒。大阪大学大学院国際公共政策修了。1987-88年、ニューヨーク大学大学院留学。1981年、読売新聞大阪本社入社。社会部、京都総局、社会部堺支局長、高知支局長、広報宣伝部長、編集委員などを歴任し、2014年6月から現職。

女性の有職率の上昇と出生率の増加を同時に達成できるような家族政策はどのようなものなのでしょうか？ 仕事を持つ男性と女性が、仕事と私生活をよりよく両立している成功事例にはどのようなものがあるのでしょうか？ このような不平等の土壌となる社会文化的要素はどのように説明されるのでしょうか。とりわけ、高等教育への進学や企業や行政機関で責任ある上級職に就くことを女性が自ら躊躇して諦めてしまうメカニズムはなぜ起こるのでしょうか？ 政界と官僚組織における女性の活躍を促すための公共政策にはどのようなものがあるのでしょうか？

（敬称略）

## 上智大学 2号館17階国際会議場

2015年5月29日（金）17:30

### 女性とリーダーシップ:全てを選びましょう!

CHOISISSEZ TOUT ! : FEMMES ET LEADERSHIP

〔開会の辞〕早下隆士（上智大学学長）

#### ナタリー・ロワゾ Nathalie Loiseau フランス国立行政学院〔ENA〕校長

パリ政治学院卒業。1986年外務省入省、1993年外務大臣キャビネ参事官、在米国大使館広報部長、2007年外務省北アフリカ中東局次長、人事局長、行政近代化総局長等を歴任。2012年現職。フランス国立行政学院〔ENA〕は首相直属の幹部公務員養成機関である。ロワゾ氏は、「女性・外交官・非OB」という異色の経歴をもつENA学院長として、就任以来、社会のリーダーを育成する世界トップクラスの教育機関であるENAの更なる競争力強化、国際化を図るために入学試験や研修内容等の改革に邁進している。近著に「Choisissez tout ! (全てを選んでください)」(未邦訳)がある。

#### 松川るい Rui Matsukawa 外務省総合外交政策局女性参画推進室長

1971年生まれ。今年4月に外務省に新設された女性参画推進室の初代室長。アジア太平洋局地域政策課でASEAN協力や日中韓協力、日タイ、日フィリピン他とのEPA交渉に携わり、ジュネーブの軍縮代表部にて核軍縮に取り組み。前職は、日中韓政府が2011年に設立した日中韓協力事務局の初代次長。2児の母。

#### 三浦まり Mari Miura 上智大学法学部教授、上智学院男女共同参画推進室室長補佐

専門は比較福祉国家論、現代日本政治、ジェンダーと政治。著書に「ジェンダー・クオータ：世界の女性議員はなぜ増えたのか」(共編著、明石書店)、Welfare Through Work: Conservative Ideas, Partisan Dynamics and Social Protection in Japan (Cornell University Press) ほか。

#### 田淵六郎 Rokuro Tabuchi 上智大学総合人間科学部教授

専門は家族社会学、福祉社会学、人口学。著書に「現代中国家族の多面性」(共編著、弘文堂)、Changing Families in Northeast Asia (Sophia University Press) ほか。

〔司会〕

#### 田口栄一 Eiichi Taguchi 読売新聞メディア局編集部長

1965年生まれ。上智大学卒。88年、読売新聞入社。メキシコ特派員、「日テレG+チャンネル」ディレクターなどを経て、2012年からメディア戦略局（現メディア局）勤務。会員制サイト「読売プレミアム」の「ロングインタビュー」を担当。

